

鹿兒嶋縣  
明治太平記

天の時地の理小まらば地の理人の和まらば古人の金き直あまらばいよく氣と得て勇氣日頃一倍大粒ちりりて戦ひ又官軍をたかると要ふひのすけいさ言詰中絶上死命のじ典ふれい泉とをるる鯨波金油もふらるとなる夫より次第小山島もさる斗の大砲を大砲打もる鯨波声西海へ起り西郷を巻一丸及び席巻せんとして先能本に近る由の電報連一は征討總督有栖川宮陸軍を率い神戸港へ出帆あり熊本こゝへ進みあつたれ西郷隆盛其勢一万有四千先陣熊原國幹ハ熊城近く攻専て大化敢て激戦す茲官船龍旗丸ハ肥後近海で固め陸軍に應援す折々肥前大草の沖を賊船よ出合ひ激戦教向つて敵船三隻と奪ひ三十余名生捕たりと云

編輯 高津町九番丁土番地  
出版人 川上作次郎



鹿兒島県明治太平記 文庫10-8337

